

野球部通信 Vo.1

令和2年8月号

【編集者】

監督:岩切

ミーティング内容

1 練習で良かったところ
実戦練習→エラーの回数
サイン→ボール回し(3分以内)
1日300本振る(居残りの)
指示の声動き
「スピード」「正確性」という声
声が出ていた。だんまり
サインが出た時に間をとっていた。

2 試合前の良かったところ
切り替えが早かった。時間を有効利用
何度もアプが効いていた。
準備が早かった。(丁寧に早く)
夕方の状態を共有できた。朝の練習の準備も早かった。

3 試合中の良かったところ
不慣れた言葉を使わなかった
予測の声 確認の声 一球一球
声かけが多かった。スタメンの
声かけが効いていた。
盛り上がった。

4 チームの課題
打撃力・守備の連携
サイン・全員で合点する。
守備力・投球力・小技の正確性
準備と連携。プラスの言葉
だ。大きな声を出す
切り替えを早く

5 チームの目標
県大会出場
2勝

6 新チームの約束事
グラウンド内全歩速・全歩
返事 凡事徹底
声を出さず。(練習前)
全員で練習。プラスの言葉
笑顔の準備

新チーム始動！！！！

夏の熱戦から休む間もなく、新チームでの活動が早速始まりました。新チームの初めての練習は、まずはミーティングから。ミーティングでは先輩達が成し遂げた「シード校、撃破」という功績が、なぜできたのかを生徒と先生たちも交えて、意見を交換しました。その中でも、先輩たちが意識して掛け合っていた「準備」という声、行動の「スピード」が特に印象的だったらしく、この良さを引き継いで、チームの強みにしようという結論が出ました。またチームの課題も見つめ直し、新チームの目標も「県大会出場」と設定しました。決して不可能ではない目標です。「目標が一日一日を支配する」。今この瞬間が目標達成に繋がっている意識を持って練習に取り組む気持ちが固まったミーティングでした。

「坊主」は強制しません！

高校球児の象徴である「坊主」。しかし、野球部は新チームから「坊主」は強制しません。この選択は、一見すれば「楽」「規則の緩さ」を表すものだと思われがちですが、果たしてそうでしょうか。「高校球児」＝「坊主」というのは、世間一般がもつイメージでもあり、「理想」でもあります。その世間が求める姿と、「逆」のことをすれば、風当たりも強くなるかと思えます。「高校球児なのに、なんで彼らは坊主ではないのだ」「おかしい」と。しかし、時代も変わり、様々な個性が認められる令和の時代に「坊主強制」というのは違和感を覚えます。坊主でなくても、見た目ではない部分で応援されるチーム。それこそが、真に求められる高校球児の姿なのではないでしょうか。

新ギア導入！ その名も「ジャベリックスロー」！

プロ野球選手も練習で使用している「ジャベリックスロー」を導入。

早速みんなで投げ合ってみました。なかなかうまくいきません。

しかしながら、新エースはあっさり順応。そして、ジャベリックスローをした後に投球練習を行うと、明らかにボールの質が変わりました。本人に話を聞くと「リリースがしやすくなった」「体全体でスムーズに投げられるようになった」と明るく話してくれました。「試合の時も持って行っていいですか」と、かなり手ごたえがあったようです。継続してトレーニングをして、磨きをかけてほしいですね。

他の部員も頑張れ！！



ジャベリックスロー



中学生の皆さんへ

樟風高校の野球部では、「新しいこと」や、「良い」と思ったことは、常識にとらわれず、挑戦的に取り組む環境が整っています。また練習の雰囲気もよく、みんなが楽しみながら、自分の成長のために練習に取り組むことができます。ぜひ樟風高校と一緒に野球をしませんか(^^)もし興味がある中学生の生徒さんがいたら、練習の見学だけでも来てみてください。